

# 桐生西ロータリークラブ週報



2016-17年度RIテーマ ジョンF. ジャームRI会長

ROTARY SERVING HUMANITY 人類に奉仕するロータリー



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30  
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス  
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp TEL 0277-22-9155  
 URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi FAX 0277-44-2777  
 会長 前原榮一 幹事 東郷 学 クラブ会報・雑誌担当 新木明夫  
 広報活動委員長 山形 剛 委員 鳥嶋隆一、高森 勉(歴史編集・IT-CICO担当)、池末晋介

No. 2075

2017年5月12日発行

## 第2200回記念例会 (2017・4・28) 報告

### 記念講話に RI第2800地区藤川 享胤バスターガバナーをお迎えして

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
3. 来訪者紹介
4. 新会員入会式 会員章授与&歓迎の言葉  
ガバナーエレクト 田中久夫様
5. 会長報告
6. 幹事報告
7. 委員会報告

8. 記念講話『ロータリアンの矜持』  
RI第2800地区バスターガバナー 藤川享胤様
  9. 点 鐘
- 懇親会 —
- |                       |
|-----------------------|
| 司会 副SAA 園田誠司君         |
| 1. 開会挨拶 桐生西RC会長 前原榮一君 |
| 2. 乾 杯 バスターガバナー 疋田博之様 |
| 3. 閉会挨拶 ガバナー補佐 阿左美博君  |
| 4. 諸事お知らせ             |



真のロータリアンについて熱く語られる藤川享胤バスターガバナー

#### ◆新会員入会式

山根久男君  
 (株)新浜せんべい 代表取締役  
 職業分類：菓子製造小売  
 推薦者：高森 勉君 小林 聡君



#### ◆高森勉君より山根久男君の紹介：

山根君は昭和46年に桐生にお生まれになり、その後敷塚の学校を経て、現在太田市にお住まいです。実家は桐生市広沢町にあるそうです。ご家族は奥様とお子様2人の4人家族です。非常に交友関係が広い方なので、今後新会員の紹介をして頂けると期待しています。

#### ◆ビジター

RI第2800地区バスターガバナー(鶴岡RC)	藤川 享胤様
RI第2840地区	(藤岡RC) 清 章司様
"	(渋川RC) 森田 均 様
"	(桐生RC) 疋田 博之様
"	ガバナーエレクト(高崎RC) 田中 久夫様
桐生RC	会長 吉田 栄佐様
"	会長エレクト 前原 勝彦様
"	幹事 柳 明彦様
桐生中央RC	幹事及び次期G補佐 遠藤二三男様
桐生赤城RC	初代会長及び元AG 金井 栄則様
"	バスター会長 星野 哲夫様
"	幹事 清水 哲 様
"	岩崎 貴幸様
桐生西RCバスター会長東郷庸史夫人	東郷 直子様

#### ◆会員章授与 ならびに歓迎の言葉



ガバナーエレクト 田中久夫様



もう暫らく経ちます と私のガバナー年度を迎えますが、私の1丁目1番地は会員増強でございます。「各クラブ1割の純増を目指す」という事になっておりますので、現在会員数60名との事ですので、更

に6名入れて頂きたいと思ます。

実は、新会員を迎えますと、我々が知らなかった人脈(RIではターゲット層と言う)を期待する事が出来ます。私のクラブも数年前に51名の新会員を迎えた年度がありました。今はその方達のお知り合いが入会するという、良い循環が生まれる様になりました。その中心人物に本日入会された山根君を据えれば間違い無しだと思います。

新会員さんに是非覚えて頂きたい事があります。それは、私が20年前に入会した時、釘を刺された事で、「ロータリーは辞められないんだよ。辞められるのは、死ぬ時か会社が駄目になった時だけで、その覚悟がないと入会出来ない。」と、厳しいお言葉を頂きました。山根君はきっと大丈夫です。皆さん、もう一度、彼に歓迎の拍手をしてあげて下さい。

**山根久男君のご挨拶：**

名前の通り煎餅の専門店を営んでおります。桐生の地で作り続けて創業約70年になります。桐生らしさや素材、伝統にこだわりつつ、新しい形で色々な商品を提供していく様、日々精進しております。また私は昭和46年生まれの46歳で小林聡君や園田誠司君と同級生です。初対面の方々も沢山いらっしやいますので、成るべく多くの先輩方とお話をさせて頂きまして、ロータリーについて学んで行きたいと思っております。今後とも宜しくお願ひ致します。

**◆会長報告 前原会長**

1. 先週の例会で「ひろくん心臓移植」の募金箱を廻しましたところ34,000円集まりました。緊急を要するとのことでしたので、25日に専用口座に送金を致しました。

**◆幹事報告 東郷(学)幹事**

- ◇次週5月5日(金)は祝日の為、休会です。
- ◇ガバナー事務所より連休中の休暇のお知らせが届いています。明日から7日(日)迄です。
- ◇地区大会のお礼状が届いております。
- ◇5月のロータリーレートは1ドル110円に変更になります。

**◆委員会報告**

**□クラブ運営委員会**

**◇出席報告 早川出席担当**

総数60名(免除者11名の内9名出席の為2名を除く)  
出席率対象者58名、出席率対象者出席人数44名  
欠席者14名(内前メイク7名) 出席率87.93%  
前々例会修正出席率89.47% (最終欠席者6名)

**□拠金委員会**

**◇ニコニコBOX 山同拠金委員**

節目の記念例会おめでとうございます。久々に古い面々にお会いでき大変なつかしく存じます

パストガバナー 清彰司様

桐生西RC 2200例会を祝して

桐生赤城RC初代会長 金井栄則様

2200回記念例会おめでとうございます

桐生RC・吉田栄佐会長、前原勝会長エレクト、柳明彦幹事 藤川様ならびに大勢の皆様ありがとうございます 前原君 清PGお久しぶりです。昔はお世話になりました 星野君 記念講演に藤川享胤パストガバナーをお迎えして

根本君、阿左美君、中野君、坪井君、

七五三木君、山形君、栗原(幸)君、青山君

2200回記念例会を祝して

船戸君、向田君、田崎君、齊藤(学)君

山根君の入会を祝して

小林(聡)君、高森君、霜村君、新木君、園田君

14日(月)午後3時から奥平哲也さんのマリンパソコンサークル安養寺までお出掛け下さい 船戸君

GWなど関係のない私です 浦野さん

**◇ロータリー財団 七五三木R財団担当**

2200回記念例会を祝して 桐生赤城RC・清水幹事 藤川享胤パストガバナー講話ありがとうございます

星野君、鳥嶋君、坪井君、乾君、青山君、山形君、

栗原(幸)君、下井田君、江原君、中野君、浦野さん

2200回記念おめでとうございます 向田君、田崎君

新会員の山根君をお迎えして

前原君、阿左美君、小林(聡)君、園田君、高森君

早寝早起きでスコブル元気です

船戸君

**◇米山BOX 河内米山BOX担当**

藤川享胤パストガバナーをお迎えして

江原君、中野君、坪井君、青山君、七五三木君、山形君

森田PGいつもお世話になります

星野君

2200回記念例会を祝して

阿左美君、向田君、田崎君、高森君

山根君、入会おめでとうございます 小林(聡)君、園田君

手でネジを外しているのを見て2人の人が電動ドライ

バーを寄贈してくれました

船戸君

下腹をへこませにライザップ考え中

浦野さん

**豊川一男ガバナーよりお詫びとお願い**

謹啓 新緑の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素はロータリー活動にご支援頂きまして厚く御礼申し上げます。

さて、私 豊川一男の現況を皆様にお伝えしなければならぬ状況が発生いたしました。

2010年11月に発病しました「消化管間葉系腫瘍(GIST)」で胃の切除手術を行いました。以後、予防内服(投薬)を実施してきましたが、本年1月に再発が確認されました。GISTは再発すると急激に進行し、現在「多発肝転移」「腹膜播種」が明らかに増大しました事で、手術による病変の摘出が不可能と診断がでました。現在(2017年4月26日)は病変の増大に伴い内臓に圧迫があり、食事をとることが困難であり、体力の維持に重点をおくばかりで日常生活に支障をきたす状況です。

本年度は余すところ2ヶ月となりましたが、地区運営を継続することに不安感を禁じえません。誠に勝手に申し訳ありませんが、今後の地区行事への出席は控えさせていただきます。何卒ご理解の上お許しいただきます様、お願い申し上げます。

国際ロータリー地区ガバナーの重責を与えて頂きました事は、私の人生でこれ以上の荣誉は有りません。ガバナー年度終了後にはロータリー活動に専念し、ロータリアンの皆様に恩返し致したいと存じていた所、とても残念に思えます。私の不徳の致す所でロータリアンの皆様にご迷惑・ご負担をお掛け致しますのは大変心苦しいのですが、皆様のご理解をご協力を心よりお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして、私からのご挨拶と致します。 謹白

国際ロータリー第2840地区 **わか-豊川一男**

**桐生5RC合同群馬大学理工学部留学生交流会 日程変更のお詫びとお知らせ**

既に会員皆様にご案内しております標題の会が、当初の開催日がイスラム教のラマダン(断食)に当たるため、日程変更をせざるをえなくなった旨、幹事クラブの桐生RCさんからご連絡ありました。

新しい開催予定日は7月15日(土)の正午からで、内容は変更ございません。その節は改めてご案内いたしますので、宜しくお願ひ致します。

RI第2800地区パストガバナー 藤川享胤氏 記念講話「ロータリアンの矜持」



RI第2800地区パストガバナー  
RI会長代理歴任  
及び各種コーディネーター歴任

藤川 享胤 様  
(鶴岡RC)

皆様今晚は、只今ご紹介いただきました2800地区鶴岡ロータリークラブの藤川でございます。

この度、お招きいただきお話をする機会を頂戴しましたこと、大変嬉しく存じております。

しかも、15年前、皆さんのクラブの今は亡き矢野先生がガバナーエレクトの時、アナハイムでの国際協議会で指導教官を勤めさせていただいた私にとりましては、先生のホームクラブにこうして訪問させていただきましたことは、万感胸迫るものがございます。

本日、私は「ロータリアンの矜持」という演題の下にお話をさせていただきますが、なぜ私がこのタイトルをつけさせていただいたか？と申しますと、残念ながら実は私自身、今のロータリーには少し違和感がございまして、ロータリアンとして胸張っての矜持が持てないからであります。

今のロータリーというよりは、今のRIの方向性と言ったほうが、よりの確かもしれません。

1999～2000年、私はガバナーを勤めさせていただきましたが、そのときの国際ロータリーの会長はイタリアのカルロ・ラヴィッツァさんでありました。

彼は「新しい千年紀に会費を納入するだけの会員をもうこれ以上ロータリーは必要といたしません。ロータリーが今必要としているのは、わが身を律して地域社会、国際社会で鋭意奉仕を実践しようとする情熱溢れる男女ロータリアンなのです。」と言い切りました。しかも彼はこう続けられたのです。「しかしながら現在、残念なことに世界のロータリアンの70%はただ昼食のためにだけ例会に集まってくる会員であります。そこで私からのガバナー2000の皆様方へのお願いは、このたかがロータリーとんうそぶいて斜に構えておられる70%の会員の中から、どれだけ多くされどロータリーと思っ直していただける真のロータリアンを育てていただけるか、このことが私が最優先に掲げる目標であることをしっかりとご理解していただきたいのです。」そう言って私ども当時のガバナーエレクトを叱咤激励されたのです。

世界のロータリアンが119万人、日本のそれが12万2千人のときでありました。

しかしながらカルロ・ラヴィッツァの言をかりるとするならば、胸に輝くロータリーのバッジにプライドを持った彼のメガネにかなった真のロータリアンは、世界で35万7千人、日本のそれは計算上では3万7千人弱ということでありました。

「熱意欠く、ロータリー知識の欠如する会員は、私たちの組織に害をもたらしかねません。なぜならその人たちは、奉仕の理想を効果的に推進できないからです。そればかりかクラブ内の士気を低下させる場合もありますし、何よりも地域におけるロータリーのイメージを損なう場合があるのです。」

「会員の質のいかにによって私たちの力の程が決まるのです。」

「ロータリーを本当に強力にしようとするならば、

先ず以って内部関係の強化から始めなければなりません。それは、ロータリアンを教育する研修プログラムから始めなければならないということでもあります。」

これはカルロ・ラヴィッツァ元RI会長の言葉であります。彼は会員のロータリー教育の充実なくして、数は力なりを信奉して会員増強にひた走りする国際ロータリーの将来を大いに危ぶまれたのです。

ところがそれより約30年前の1970年前後、すでに今日の日本のロータリーの会員減少を見透かしたかのような予言をなされていた偉大なロータリアンがおられたことに私は驚愕の念を持っております。

1959～60年、国際ロータリーの会長を務められ、あの有名なロータリー・モザイクを著わされたハロルド・T・トーマスその人であります。

「我々は今、憂慮すべき事態に直面して居る。それは何かというと、ロータリーを今日の力と安定にまで築きあげてきた、一つの職種から一人だけ会員を選ぶという一業種一会員の原則と規則的例会出席という、二つの大原則が次第に希薄にさらに希薄にされていく傾向がある。」

そう言ってハロルド・T・トーマスは当時の国際ロータリーに強い警告を発しました。

世界の会員数が68万人、日本のそれはまだ5万人に達していなかった頃、国際ロータリーの会長をお務めなされた偉大なロータリアンのアドバイスを無視してまでも、ロータリーは変えてはならない大原則を可能な限り規制緩和をして、会員増強に突き進んだのです。

そのことが将来的にはロータリー自身の首を締め付けることに繋がるかもしれないことを、当時RIの官僚達は予想できなかったのでありましょう。

勿論ハロルド・T・トーマス、カルロ・ラヴィッツァを始めとする一部の心あるロータリアンはすでに気づかれておられました。

しかし、その忠告に耳を傾けること以上にRIはロータリーが掲げる社会奉仕と国際奉仕を實踐し、社会から必要以上に期待された結果を出さんがためにいるんな理由や理屈は添えましたが、結果的には数集めを最優先に掲げたのです。

私がいまご紹介した2人の偉大なリーダーたちは、私どもが触れにくいロータリアンの質と量の問題を真正面から言及しておられるのです。

質の問題を重要視するならば量の目減りは覚悟の上であります。

18年前私がガバナーのときの公式訪問で各クラブの会長・幹事さんやクラブ協議会などで皆様に特にお願したのはクラブの充実でありました。

それは「ロータリーの精神を奮起させ」というテーマを示されたウィリアム・ロビンス元国際ロータリー会長の、「ロータリーは成人教育の最も優れた実験場であり、ロータリーの第一の目的は親睦と奉仕を通して人を育てることにある。クラブの価値は、そのクラブがいかなる人材を育てかによって計られる。それ以外何を望むべきであろうか」という箴言を座右の銘にしていたからであります。

「ロータリーは人づくりの最高の場である」これが私のロータリーに対する信念であり心の支えでもありました。

だからこそクラブが充実するかどうかのキーワード、それはカルロ・ラビッツァ元RI会長同様、会員の質の如何によって決まってくる、そう思い続けてまいりました。

勿論ロータリーは人間として完成された、もしくは

完成されつつある人々だけの集まりではございません。しかしながら磨けば磨くほどその素晴らしい資質を開花できる可能性を秘めた仲間の集まりであることだけは間違いないと確信しておりました。

その仲間が親睦することによってゆるぎない友愛と信頼関係が構築されたとき、初めて奉仕と言う概念が生まれいでてくるのであり、その親睦の場こそ例会に他ならない、そう思っておりました。

ロータリーが出席をやかましく言う理由はここにありました。

ロータリーの例会に出てあの方にお会いでき心が救われた、厳しい経済環境の中だけでもう一度頑張ってみようというエネルギーをいただく場であると同時に、一週間浮世に出て、嘘もつき、利己主義に陥り、大いに穢れてはまた例会に戻り、仲間に出会って反省をして自分を新たに清め、志を高く持ち直して再び浮世に出ていく。でも又時々だけれども方便も使うしい訳もする。しかしながら序序にはあります仲間と共に成長をさせていただく場、それが本来のロータリーの例会場でありポール・ハリスがロータリーを作った基であろうと思っておりました。

ですから、「藤川さん、ロータリーって何ですか？」そう質問されたとき私は迷わずこう答えて参りました。

ロータリーとは「奉仕の心とそれを実践する力が共に伴った立派な専門職務者と職業人を育てる世界に広がる修練の場であります。」と。

ところがこの数年R Iの現状を見ておりますと最近私は胸を張ってそうとは言えなくなってまいりました。否むしろ心あるロータリアンにとって今のロータリーは居心地の悪い環境になっているのではなかろうかという危惧さえ感じておるのです。

ご承知のように2013年、前回の規定審議会では会員資格条件の中になんとハウスワイフという項目を採択いたしました。

実はその前年国際ロータリーは3年計画で会員増強10万人増のターゲットを掲げ会員増強の大キャンペーンをスタートいたしました。

そしてこの国にはその1割に当たる1万人の増強が課せられましたが、増強どころか一時は世界のロータリアン数が120万人を下回った時期がございました。ハウスワイフという会員の資格条件の採択は、会員増強10万人計画が頓挫することをはじめから予見してのR I 官僚が考え出した会員増強キャンペーン失敗の時の予防処置法的なものだと私は受け止めておりました。当初R Iは世界の会員数を130万人までしようと目論みこのキャンペーンをスタートさせましたがキャンペーン中130万人どころか今申し上げましたように一時は120万人を下回った時期がございました。

これにあわてたR Iはこのキャンペーンの最終年度のグリー・ファン元R I会長になんと愚かにも配偶者をロータリーに迎えましょうという強調事項的な呼びかけまでさせたのです。

何よりも、権力者に尻尾を振りながら近づいていくリーダーが多い組織や、計画したプロジェクトやキャンペーンが失敗したときに、誰も責任を取る人がいないどころか、悪いときには身から出た錆と潔い出処進退が出来るリーダーが少ない組織の未来がどうなるかは、推して知るべしであります。

何よりもこれはロータリーが描く理想的なロータリアンの人格とはあまりにもかけ離れたそれではありませんまいか。

先ほど申し上げましたように、ロータリーの金看板は人作りのはずであります。

だからこそロータリーはインターアクト、ローター

アクトクラブを創設し次世代の健全育成に情熱を注いで参りました。財団では奨学生を支援し、G S Eを派遣し教育的プログラムを充実してまいりましたし、この国では米山奨学会も最大限に支援してまいりました。そして我々ロータリアンは職業奉仕という楔を自ら己に打ちこんで人格の形成、品格の向上に努めてきたはずであります。

しかしながらR Iは財団の世界平和奨学生以外、今これらの人づくりのプログラムにはあまり関心を示しません。

それどころか2003年、各地区に強制力を伴ってD L Pを導入したときすでに織り込み済みだとして各クラブに無理強いするがごとく提示したC L Pでは、私どもが金看板として大事に守り続けてきた職業奉仕委員会さえ、奉仕プログラム委員会に十把一絡げのように閉じ込めてしまったのです。

彼らが関心を抱くのは、会員増強とそれによって図られる人頭分担金の増収と、貧困の緩和という美名の下に行う人道的プログラムであります。

そのR Iの官僚を束ねるジョン・ヒューコ事務総長は一昨年1月サンディエゴで開催されました国際協議会でなんと次のようなあきれ果てた発言をしておられるのです。

「確かに高い倫理基準、クラブの多様性といった時代を問わず普遍的に私たちの組織の根幹を築き、ずっと変えるべきではないほんの一部の伝統もあります。しかし、恩恵をもたらすよりむしろ障害となってしまっているような伝統も数多くあるのです。会員数が減少している地域、これは間違いなくこの国を指すのですが、このような地域では過去と同じ方法では私たちの商品はもはや買って貰えなくなったことを理解してすぐにでも見直しが必要でありましょう。

戦略的な焦点の一つとして、出席要件よりも参加を重視すると決めたら、ロータリーはどんなによい組織になるでしょうか。

神聖化された伝統の一部を真剣に見つめ直し、クラブが一番よいと思うやり方で運営するための柔軟性を持たせる時期が来ているのかもしれない。

参加しやすいクラブをつくれればより多くの人々にとってもっと魅力的な組織になるのではないかと考えます。繰り返しますが、重要なのは出席ではなく参加です。」

彼には毎週の規則的例会出席など金属疲労を起こしかけているロータリーの変えねばならない神聖化した古き伝統だと思われていたのでしょうか。

ご承知のように昨年4月、シカゴで開催されました規定審議会に、月2回以上の例会を開催すればよいという立法案を、理事会から上程させ可決させるシナリオを現実化させましたが、これはその時すでに彼が描いていた戦略であったらうと思います。

さらに彼はこう続けました。

「クラブや地区の会費構造の視点を考えてみては如何でしょうか？ 国際ロータリーへの人頭分担金54ドルがよく話題となりますが、クラブ会費、地区経費、食費などが大部分を占めるロータリアンの実際のコストと比べれば、これはスズメの涙です。」

当時の人頭分担金54ドルを全世界のロータリアンから集めれば年間日本円で85億円以上になるのです。85億円をスズメの涙と表現した時、すでに彼はこれも昨年の規定審議会でも理事会からの立法案にR Iの副会長に突然2017年、そうです、今年から一気に4ドルずつ値上げをさせていただきますという修正案をださせ、可決させるシナリオをも、そのときに既に描いていたのでありましょう。

しかもあきれ果てたことに、その値上げの主な理由がロータリー財団の年次寄付と人頭分担金の投資の失敗だと言うのです。

ロータリー財団の年次寄付の投資の失敗ならまだ理解できますが、年度決済の人頭分担金の投資の失敗とはどういう意味でありましょうか。

彼らには我々の人頭分担金を節約したり効果的に使うというような謙虚な発想は皆無であろうと思われま

す。これらを画策したジョン・ヒューコという人物が国際ロータリーとロータリー財団を束ねる事務総長であり実質的な国際ロータリーの最高権力者であろうと思

います。そして残念ながら、今このお方に面と向かって物申せる人がほとんどいないというのが現実であります。国際ロータリーの会長経験者を以ってしてでもであり

ます。なぜか？理由は2つあるかと思えます。一つは優秀な彼の事務管理能力と発展途上国の政府ととてつもない強いパイプを持つ彼に、シニアリーダーといわれるロータリアンが束になって理論武装をしても、対抗できないのが実情であろうと思えます。

軒下を貸していた我々の従業員に、いつの間にか母屋を乗っ取られてしまったといっても過言ではないのであります。

もう一つの理由は地位や名誉や名声をほしが一部のロータリアンのリーダー達は、その地位保全や名誉維持のために、彼に物申すことが出来ないでいるのが現実であろうかと思えます。

彼に対して唯一正面きって物申せるお方はヴィチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長であります。

ですからヴィチャイさんに対するR Iの官僚たちのこれまでの仕打ちは筆舌に尽せないものがございます。国際ロータリーの会長経験者はよほどのことがない限り、ロータリー財団の管理委員長をお勤めになられます。ご記憶の方もいらっしゃると思いますが、ヴィチャイ元会長は管理委員長就任1ヶ月でその任を辞職いたしました。表向きはご自身と奥様の健康の不安を理由と致しましたが、事実は当時の財団の事務総長と官僚からの受けた仕打ちに耐えに耐えた結果の無言の抗議であったのです。

因みに近年の規定審議会を見ていると、日本からの代表議員のほとんどは、規定審議会がロータリーの定款・細則を作るという法律作成の戦場であるという認識は少ないといわざるを得ないのです。

それは、契約社会に生きる欧米の諸国の代表議員に話せば分かるというセンスの日本のロータリアンではなから太刀打ちなど出来ないであります。

私自身2007年の規定審議会に2800地区の代表議員として出席いたしました。そのとき思い知らされたことは少なくとも規定審議会の中では、日本は如何に小国家であるかと言う現実であります。

幸運にも日本の代表議員の皆さまの大変なご努力により最低限の面目は保つことが出来ました。契約を最優先にしている社会の中で生活をしているロータリアンと法律論で対等に勝負をしようとするならば、彼らを納得させるだけの理論武装をして臨まなければ、日本から提出する立法案は採択されにくいという現実

に直面いたしました。

我々日本人にとって国際社会での英語の壁は想像以上に越えにくい高いハードルなのです。

感情論で訴えても同時通訳を通せば、提案者の思いは他国の代表議員の心には届きにくいのが現実であります。

最もヴィチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長のように聴衆を釘付けにするような英語での提案理由や応援演説ができれば話は別でありましょうが。

国際ロータリーやロータリー財団に対する貢献度は規定審議会の票数には直接には結びつかないと言う現実を真摯に自覚しなければならないと感じましたし、世界のロータリーの中での今の日本の立ち位置がどの辺にあるのかをしっかりと認識する必要があるかと思

います。さすればどうしたらいいのでしょうか？日本のロータリアンの中にはR I B IのようにいっそR Iから独立したらいいじゃないか？といわれるお方がいらっしますが、これは1927年以降、法的に出来なくなっておりますから不毛の議論であります。

こういう時は原点に戻るしかないのです。つまりクラブベースで我々の先輩が金看板に掲げてきた職業奉仕を、我々自身もこれこそロータリーの真髄だとして掲げ、それを我々が忠実に実践して、仲間同士で切磋琢磨をして己を高めていこうというクラブ運営を各クラブがプライドを持って採択できるかどうか、そこがキーワードだと思っております。

ロータリーの本義である人づくりにそして我々自身の高潔性を高めることに共感を持つロータリアンをどれだけ増強できるか、今がまさに正念場であろうと思

っております。その代わりR Iの言うことは半分聴き流して結構であります。

よくロータリーの職業奉仕は難しくよく分からないといわれますが、ではロータリーの金看板「職業奉仕」を、残りの時間皆さんと共に考えてみたいと思

います。この大事な命題を考察するには少しばかりロータリーの歴史を振り返る必要があるかと思

います。1905年、ご承知のように互惠取引と会員相互の親睦を旨として船出したロータリーは瞬く間にその裾野を広げてまいりました。ところが翌年、「会員以外の人々のために何もしないようなクラブには何の魅力も感じられない。」そう言ってクラブへの入会を拒否したドナルド・カーターの言動は、ポール・ハリスの心を揺さぶります。

これが機縁でポール・ハリスは自分たちだけが得をするという考えから脱却して、会員以外の人々のためにも何かはしなければならないという奉仕という概念をクラブに取り入れたのです。

そして1907年、彼はシカゴクラブ3代目の会長に就任し翌年再任され、シカゴ市に公衆トイレを寄贈するという社会奉仕の先例をつくりますが、任期途中で辞任に追い込まれます。古い会員であるハリー・ラグラス達とのクラブ運営のあり方についての確執が原因で

した。クラブに奉仕という概念を取り入れようとしたポール・ハリスらと、互惠取引と親睦の社交クラブで充分だとする仲間との衝突を避けるため。ポール・ハリスはクラブと少し距離を置き、クラブの拡大に精力を注ぎ

ます。そして1910年には、全米ロータリークラブ連合会の会長に就任するのです。この頃から着実にロータリーには奉仕という概念が息づいていったと思われ

ます。そして1915年、サンフランシスコで開催された国際大会で、ロータリーの職業奉仕の原点になったとも言われるあの道徳律が採択されました。11条からなる道徳律の3条には次のような名文が記されてお

ります。「吾は実業人であり成功の野心を抱いていることを認める。ただし最高の正義と道徳に基づかない成功は

これを欲するものではないということをしかりと肝に銘ずるものなり。」

この一文はその10年前、シカゴでポール・ハリスたちがロータリーを創設した時のアメリカの秩序なき職業倫理の低俗さを思うとき、驚嘆に値いたします。

そして6年後、エディンバラで開催された国際大会で、次のようなロータリー哲学の基であるアーサー・シェルドンの職業理論が初めて紹介されたのです。

その内容をかいつまんで申し上げると、

1. 職業はただ利益を得るための手段だけではなく、それをもって社会に貢献、並びに奉仕するために存在するものである。
2. そしてその奉仕とは、継続的な利益を得るための人間関係の基本的法則である。
3. 故に職業奉仕とは、リピーターをどれだけ多く得るための科学的かつ道徳的な経営方法である。

これが彼の職業理念でありました。この前年1920年に、東京ロータリークラブが誕生いたしましたから、この時点において日本のロータリアンのほとんどは職業奉仕の何たるかを充分には理解していなかったと思われる。

ある意味では、シカゴクラブの創世記以上に実業界のトップが集まった社交クラブ的存在であった日本のロータリアンが、ロータリーで職業奉仕が如何に大事であるかを知るのには1927年以降であろうかと思えます。

なぜならその年にベルギーのオステンドで開催された国際大会で4大奉仕が初めて類型化され「職業奉仕」という呼称が正式に与えられ、「職業奉仕はロータリアンがそれぞれの職業を通じて他の人々に奉仕をし、かつ高い道徳的水準を保つことを奨励します。」と宣言されたからであります。

この時が、職業奉仕の理念としてアーサー・シェルドンが提唱したロータリーの哲学の真髄、職業奉仕理論をロータリーが公式に受け入れた年であります。

私はシェルドンの研究家ではございませんが、私が理解している彼の職業理念の根本を簡潔に言うとするならば、我々の目標は「自らの事業を継続的に如何に発展させるか」その一点であります。

継続的に発展させる、ここがミソであり、まさに生命線なのであります。

一山当てようという商売の仕方をロータリーは認めません。なぜならそのやり方では商売の継続的な発展は望めないからであります。

では商売を継続的に発展させるために必要な経営理念は何でありましょうか？

シェルドンは自らの利益を最優先せずに、自分の職業をもって地域の人々に何かのお役に立ちたいという揺ぎ無い信念、これだと言うのです。

この信念さえ貫いていけばどんな職業でも必ず成功する。それが、「One profits most who serves best」「最も多く奉仕するもの、最も多く報われる」、ロータリーが掲げる第2の標語に通じてくるというのです。

つまり顧客の満足度を最優先して、自らの職業を通じて他人に奉仕させていただくという信念さえおぼれなければ、だまっていてもリピーターと新規顧客を充分獲得でき継続的な事業の発展に繋がる、これがシェルドンの奉仕理念の根幹であります。

ところが一方、職業とは金儲けの手段でもありますよね。どんなにかっこをつけても私達が生きる糧を得るための手段であることに間違いはないはずであります。

一方奉仕とは世のため人のために何かをさせていただけますという思いやり、無償の愛の世界であります。

この方向性がまったく違うベクトル、打算の世界と愛の世界を調和させるのが、ロータリーの職業奉仕とお考え頂いてもよろしいと思います。

私どもロータリアンが職業奉仕をする時、心すべき点は、他の同業者の皆様よりどれだけ多くのより高い付加価値をつけて、お客さんのために自分の生業を提供できるかにあろうと思えます。

まさにプロの技を如何に誠意を持って提供できるか。プロの技を惜しげもなく提供するだけでなく、如何に誠意を持って提供できるか、ここが大事なポイントであり我々の高潔性に繋がるのであります。

では現実的にリピーターを確保するために私たちは何を心しなければならぬでしょうか？

価格の問題は商売上大きなウェイトを占めますよね。品質の問題も勿論大切でありますし、アフターケアの問題、従業員の接客への態度も重要なポイントです。いかに目働きの出来る従業員を多く育成できるか、企業人にとってこれはとても大事なことであります。

では目働きの出来る従業員のための育成には経営者は何を心せねばならぬでしょうか？ 給与ですか？ ポジションですか？ 福利厚生の実施ですか？ 勿論それもあるかと思えます。でも私は1番のキーワードは、あの社長にならついていきたい、そう思われる経営者になることが先決であろうと思えます。

我々ロータリアンはそれをロータリーの職業奉仕で学ぶのであり、その学ぶ場がロータリーの例会場であろうと思えます。

日本のロータリアンが職業奉仕論をロータリーの金看板として信奉するようになったきっかけの教材は、1936年に出された大連宣言であろうかと思えます。5条からなる大連宣言のもっとも大事と思われるところを分かりやすい口語文でお伝え申し上げます。

その1条は、我々事業をなすものは全て道義を重んじるべし。なぜなら我々の事業は世のため人のためになすべきものであるから、その事業を成功させたいと思うならば、なすべき人が道義から外れる行為を絶対にしてはならないであります。

そして3条では、同義から外れて巨万の富を得ることは我々がもっとも忌み嫌うところである。なぜなら我々の精神に反して利を得るがために義を売って信頼を失っては事業家としては死んでも同然だからである。

11条からなる道徳律、5条からなる大連宣言の根底に流れ出でているものは「ロータリアンよ！！汝を修煉せよ」であります。

日本のロータリアンにとって、ロータリーの職業奉仕の経営人としてのノウハウの教材は、アーサー・シェルドンの奉仕理論とハーバート・テラーの4つのテストであり、その精神的支柱は道徳律と大連宣言であろうと思えます。これが日本のロータリアンが職業奉仕を金看板に掲げてきた基になったと思われまます。この金看板がロータリーワールドで薄まったら、ロータリーに何の魅力が残るでございましょうか？

ポール・ハリスの職業奉仕に関するであろう名言を一つご紹介いたします。

「一般的に見て、ロータリアンは自分が携わる職業こそ社会に奉仕する最も手近な道であると心得ている。当然のことで職業にかけては専門家だが、慈善事業にはまったくの未熟者だからである。職業こそ自分にとって最も身近なものなのです。職業人がカムチャッカ半島や南洋諸島を調査して住みよい世界を作るために一役買おうなどと務める必要などまったく無い。そんなことをするより、自分の社員の心に赤々と灯を点じ、希望と活力を如何にしてかき立てるか、その方策を徹底的に探求するほうが常識的なより良い奉仕の道である。

ロータリーはわれわれに偉くなることなど一切望みません。ただ倫理を重んじ高潔性あふれる経営者や専門職者になることは期待するのです。」

ポール・ハリスのこの言葉はロータリーの根幹を的確に言い表しているまさに金言であろうと思います。1947年2月、ポール・ハリスがこの世を去るとき、この組織がこんなに大きくなることを彼は想像していたではありませんか。

ロータリーに似つかわしくないと否定した教条主義が、これほどまでに幅を利かせることになろうと思っていたではありませんか。

寛容という美名のもとに、ルール違反や不正行為までも黙認したではありませんか。

ロータリー財団を世界一の財団にしようとか、ロータリーは世界で有数の慈善団体であるなどと広言してはばからない元R I会長の言動を、ポール・ハリスはどんな思いで聞いているではありませんか。

I Serve を主張してきたロータリーが限りなく We Serve に近づこうとしている現状を、ロータリーも変革しなければならぬと、容認しているではありませんか。

藤川さん、では貴方がおっしゃるようになりレベルダウンしている今のロータリーに、貴方がいまだに身をおいておられるのはなぜですか？と疑念をもたれるお方がいらっしやうと思いませんか。

では最後にそれにお答え申し上げます。私には尊敬申し上げているロータリアンが何人もいらっしやいます、心から信頼申し上げお慕いしているロータリアンがお一人いらっしやいます。

元R I会長ヴィチャイ・ラタクルさんであります。ヴィチャイさんは今年間もなく91歳になられますが、私の恩人であると同時に私の心の師でもあります。私を国際協議会の研修リーダーに指名してくださったのがヴィチャイさんでありましたし、そのご縁でいろんなR Iや財団の委員もさせていただきました。

知っておられるお方は少ないと思いますが、実は先の大戦中、ヴィチャイさんは香港で日本兵から命にかかわるほどのひどい仕打ちを受けられたのです。しかし、その怨念を乗り越えて今は日本が大好きでありますし、多くのご友人がいらっしやいます。

日本に来て大歓迎を受けるたびごとに、いつも言われたことは、チャロイをつれてきたかった。でありました。

一昨年ヴィチャイさんは最愛のチャロイ夫人をなくされましたが、いまだに埋葬をなされておられません。なぜ埋葬なされないのですか？とお聞きいたしましたらこうお答えになりました。

「R Iの会長を勤めたあとも私は体の不自由なチャロイを残して世界中を駆け巡らねばなりませんでした。チャロイはどんなにか寂しかったことでしょう。Fujiさん、私がもうそんなに長くはないことは私が一番よく知っております。だからせめて私があの世に旅立つときには彼女と一緒に連れて行ってあげたいのです。」そのヴィチャイさんが最近私によくこう言うのです。

「Don't believe the RI」

国際ロータリーの会長を人一倍見事なまでにお勤めいただいたお方のお言葉ゆえに、大変重い言葉だと受け止めております。

その私が心から敬愛してやまないヴィチャイ・ラタクル元国際ロータリー会長は、私たちにこうあつく語りかけられました。

「奉仕は、時間を超越した原則で、この上にロータリ

ーは築かれました。私はもう50年以上ロータリアンですが、奉仕に直接参加しなければ、どんなにロータリー歴が長くても、誰も真のロータリーマジックは体験できないと申し上げる事ができるのです。」

ロータリーの世界で私どもが使っている奉仕という言葉の英語の語源はサービスであり、ヴォランティアではありません。

ではなぜサーブの名詞サービスを使うのでありましょうか。

それはロータリーでいう全ての奉仕は、奉仕をすることによって他人を潤すこと以上に、自分自身を磨き、高めるために、欠くべからざる大事な修練の行だと考えるからであります。

それはノーブレス・オブリュージュ、選ばれし職業人と専門職者が仲間と共に社会になすべく大事な責務であると考えからであります。

ロータリーが I serve にこだわる理由はここにあります。

ヴィチャイ・ラタクル元会長をして、「私は50年以上ロータリアンであります、奉仕に直接参加しなければ真のロータリーマジックは体験できないのであります。」と言わしめたあの名セリフは、まさにこの I serve を強調なされたものだと思われさせていただきます。

ですから、私は微力ながら、ヴィチャイさんがお立場上言えないことを、どんな横槍を入れられようとも言い続けることが、私の使命 I serve だと思っておりますし、それをなす続けることが、今の私にとっては唯一ロータリアンとしての矜持に繋がることだと思っておるのです。

1951年に制定された現行の綱領、今で言うロータリーの目的から踏み外れた方向に行きかけているロータリーであります、私は出来る限り1ロータリアンとしてロータリーの行く末を見届けたいと思っております。

なぜならこの組織があつて職業奉仕に出会えたからこそ、ちょっぴりですが己を高めさせていただきましたし、なによりもヴィチャイ元会長に、本日こうして皆様ともお会いでき、しかもただの宗教家の立場だけであつたならめぐり合えなかつたであろう多くの素晴らしい友人たちと深い友情の絆を結ぶことが出来ているからであります。

その恩に報いることが私に与えられた大事な責務であると確信しております。

80数年前、ポール・ハリスは次のような興味深い言葉を残されました

「繁栄は際限の無い憧れであり、窮乏は悩みと悲嘆の種である。ただ我々は忘れていたのだ！！いつの世でも逆境が偉大なる人格を形成してきたことを、又、繁栄によって強健な国民が育つたためしが無いことを、繁栄は精神的にも肉体的にも人を怠惰にする。即ちこれ滅亡の前兆である。」

今のロータリーの現状を滅亡の前兆と考えるか、それとも強健なクラブを作りなおす絶好のチャンスと捉えるか、ポール・ハリスの言葉は大変意味深いものがあるかと思えます。

もし、皆様が後者と考えるなら、今こそロータリアンの矜持をしっかりとかみ締めながら行動するロータリアンになるべきであろうかと思えます。

ご清聴いただきましたことに感謝申し上げます、本日の私のお話を閉じさせていただきます。

有難うございました。

藤川享胤パストガバナーを囲んでの 懇親会 多くのビジターをお迎えして



多くのビジターをお迎えして  
前原榮一会長より  
開会と歓迎の挨拶



第2分区A唯一のPG  
足田博之様より  
乾杯のご発声



藤川パストガバナーを囲んでご来賓やご相識の皆様方



第2分区Aガバナー補佐  
阿左美博君より  
閉会とお礼の言葉  
ワインをたくさん差し  
入れて下さいました。



藤川PGへ歓迎とお礼の  
花束を浦野幸子会員より



懇親会の司会進行  
副SAAの園田誠司君



当地区パストガバナーやガバナーエレクトはじめ当分区内からたくさんのお越しいただき、誠にありがとうございました。



大役を務められお疲れ様です。 ナイスショット！江原君ラッキー！



前原年度第3回ゴルフコンペ

4月13日(木)、前原年度第3回ゴルフコンペを、赤城カントリークラブで、好天気のもと開催致しました。当日はゴルフ部員15名が参加しました。

また、プレー終了後は表彰式を懇親会を兼ね和風レストランやまもとにて行い、更に優勝カップ授与式を4月21日(金)の例会で行いました。結果は次の通りです。

- 優 勝  
河内 良範君
- 準優勝  
野村 滋 君
- 第3位  
下井田秀一君



《次例会予告》

5月19日(金) 外部卓話  
大川美術館 館長 寺田勝彦様